



## 7/25『中学校英語研修講座』の概要を紹介します！ 「3観点の学習評価の在り方 ～ペーパーテストを見直そう～」

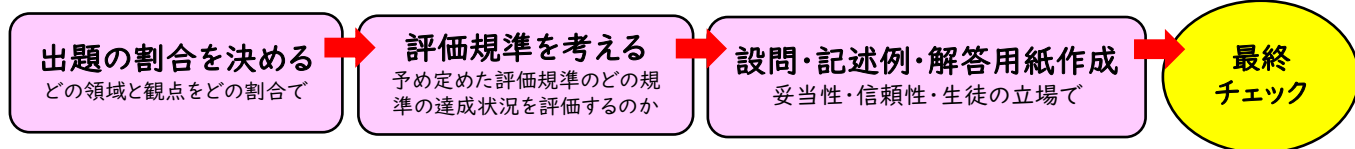
千代田区立九段中等教育学校講師 都留文科大学文学部英文学科非常勤講師  
文教大学国際学部非常勤講師 ELEC同友会英語教育学会会長 **本多 敏幸** 先生



受講者自作のテストを共有しながら、評価とテストの在り方を考えました。

実際に受講者が作成したテスト問題をもとに、新3観点の学習評価の在り方について、具体的に学びました。「いわゆる総合問題にしない」私たちの意識をアップデートする、大きなきっかけとなりました。この研修で得られたたくさんの学びの一部を紹介します。

### <テスト作成の手順> まず「フレーム」をつかって、当てはめる手順で

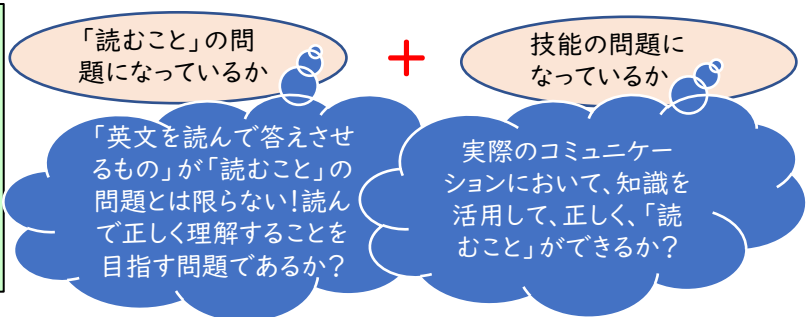


### <評価と設問のポイント>

#### 「読むこと」の技能の問題を作成したいとき

#### 「知識・技能」の評価

- 「知識・技能」は「知識」と「技能」に分けて評価することができる。
- 「技能」の問題ができていれば、「知識」は身につけていると考える。



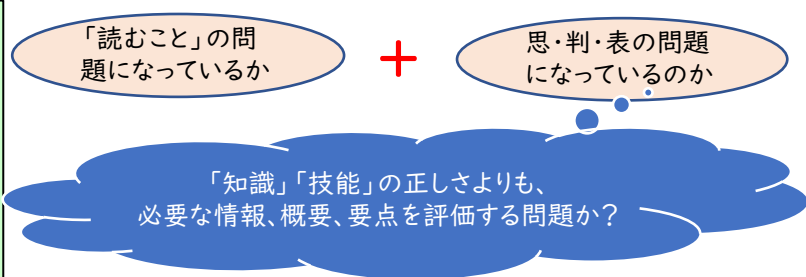
#### 「読むこと」の思・判・表の問題を作成したいとき

#### 「思考・判断・表現」の評価

- 「読むこと」（及び「聞くこと」）では、**必要な情報、概要、要点**の3つを出題すればよい。

<資料より一部抜粋>

- 情報…内容に一貫性のある英文を読み、状況などから判断して把握すること
- 概要…一語一語や一文一文の意味など特定の部分のみとらわれたりすることなく、全体として捉えること
- 要点…話し手（書き手）が伝えようとする最も重要なことは何であるかを判断して捉えること



定期テストは、評価規準の達成をみるために、教師だけでなく、**生徒にとっても、「何ができた」が見えやすいものにする。**

### 受講者の声

自分が作成しているテストを一から見直すことが必要であることがわかりました。今の総合問題から脱却したいです。大問で何を問うているのかを明らかにし、テストを作成していきたいです。

これまで自分が取り組んだテストや作ってきたテストしか思いつきませんでした。しかし、今回の研修を聞き、具体的な問題の作り方や例を多く知ることができ、真似をしながら自分のテストも改善していけると感じることができました。

今まで曖昧だった、思考・判断・表現のはかり方がわかりました。定期考査だけでなく、日々の授業からこんなテストを作る、ここで評価する、などを意識したいです。

《問い合わせ》  
研修課 0770-56-1302